

— かかわりを深め、共に学び合い、豊かな活動を創り出す生活科・総合的な学習 —  
「表現する活動」と「伝え合う活動」を通して、考えを深めていく授業作りの工夫

群馬県高崎市立東小学校

針谷 和穂子

折茂 育哉

《実践1》 単元名「あきいっぱい、ともだちいっぱい —ふれて!つくって!あそんで!—」

(1) 単元設定の理由

本校では、「生き生きと表現する児童の育成」をテーマに、「表現する活動」と「伝え合う活動」を通して自分の考えを深めていく学習の工夫に取り組んでいる。低学年では、「表現する活動＝個の活動」と「伝え合う活動＝他者との活動」を取り入れ、「自分の思いや考えを伝え、友だちの考えのよさに気づける子」を目指している。そこで、秋に触れ、秋の自然物を使った制作を通し、友達と交流するという単元「あきいっぱい、ともだちいっぱい —ふれて!つくって!あそんで!—」を設定した。

「あきいっぱい」に関しては、より身近な自然に着目させるために、学校内の「ひがしの森」「石の広場」「中庭」「なかよし小道」などを活用した単元構成にした。市街地でありながら校内に多くの樹木や草花があり、その中で秋を存分に楽しんだという満足感を味わったり、自然や季節に対する興味関心を高めたりしてほしいと考えた。「ともだちいっぱい」に関しては、たくさんの人との交流・伝え合いを意識させるために、「みつけあい」「つたえあい」「まなびあい」を単元を通じた合言葉にした。人と関わり合いながら学習を進めることで、新しい気付きや発見が生まれ、よりよい工夫ができることを、この単元を通して気付かせたいと考えた。

(2) 実践内容

本単元は、「あきをさがそう」「あきとなかよくなるろう」「あきであそぼう」の3構成にした。

あきをさがそう	あきとなかよくなるろう	あきであそぼう
○学校内の自然に関心を持ち、夏のころと比べて変わってきたことに気付く。	○秋の自然物を使って、「あきいっぱい」を感じる飾りを作る。	○みんなを招待し、楽しく遊ぶテーマパークを考える。
○校庭に出かけて、木の葉や木の実を集めたり、楽しんだりする。	○自然物を使って、自分の作りたいおもちゃを考え、制作する。	○テーマパークの中に作る「遊びコーナー」を考える。
○東小の秋を紹介するマップを作る。	○互いのおもちゃで遊び合い、良いところや工夫した方がよいところを伝え合う。	○遊びコーナーをグループで協力して作り、「1の1フレンドパーク」を開催して、友達と楽しく交流する。
		○友達からのアドバイスを活かして、自分たちのコーナーの遊び方やルールを見直し、招待する園児に適した方法に工夫する。
		○プログラムを作ったり、役割分担をしたりして、「東小フレンドパーク」に向けた準備をする。
		○遊び方やルールをしっかり伝え、招待した園児と楽しく交流する。
		○自然や人と関わったことを通し、気付いたことや考えたことを振り返る。

(3) 成果と課題

◎学校内の自然を利用して遊んだり、遊びに使う物を工夫して作ったりして、その面白さや自然の不思議さに気付いたり、みんなで秋の自然を利用した遊びを楽しんだりすることができた。

◎おもちゃや遊びコーナーに対する友達のアドバイスを活かし、よりよい工夫ができたことで、伝え合いの良さに気付くことができた。友達や園児との交流を通し、わかりやすい説明の必要性、相手に合わせた接し方や話し方の大切さに気付くこともできた。

●制作場面や伝え合い活動における、気付きや発見に関わる個人差への対応と支援のあり方を工夫していく必要がある。

(1) 単元設定の理由

6月の「どきどきわくわくまちたんけん」では、「楽しかった」で満足し、地域の人々との関わりを一層深めていこうという思いを持ち、自分達の生活は地域の方々に支えられて成り立っていることに気づくまでには至っておらず、自己の気づきから関わった人の気持ちや工夫している理由を考えられる児童は少なかった。こうした実態から、今回はグループによる話し合い活動を通して、友だちの意見を聞き合ったり、考えの幅を広げたりすることで、総合福祉センターにあるものや施設の特徴、工夫されているところ、そこで働き施設を支える人々の存在や役割、利用している人の様子などがわかり、それぞれの活動に込められた思いに気づくことができると考えた。さらに、付けたい力を具体化したものを「のびのび」というふり返りカードを使って自己評価を行い、話し合いの中で、意見を出したり、友達の意見にアドバイスしたりできたかをふり返らせることで、子ども達が自分自身や友達のよさに気付くことができ、「伝え合う活動」を行うときの自信につながると考える。

(2) 実践内容

○「表現・伝え合い」の準備

○本時の取り組み

<p>① スピーチ活動</p> <p>朝の会で日直がスピーチを行う。スピーチ後は質問タイムを設けることで、聞く力を伸ばす。国語や算数の学習でも、友だちに話す場面を多く設定する。</p>	<p>① 話し合いの形態</p> <p>はじめは個人で考えて、いろいろな意見を出させる。次にグループになり、意見をまとめていく。このときに子ども達が求めている答えに近づけるように、課題を確認させたり、アドバイスをしたりする。最後に全体で発表することで、全員が考えを共有できる。</p>
<p>② 話形の訓練</p> <p>「～です。理由は○○だと思います。」「～さんの意見に賛成です。」など話し合う上で必要な文章を使いこなせるように練習する。</p>	<p>② ワークシート（発表用シート）の工夫</p> <p>「伝えたい施設の工夫」を3つ考え、その下に「工夫が必要な理由」を書かせた。それに簡単な助詞をつけることで、発表用の原稿として使えるようにした。</p> <p>③ 工夫に気づかせる</p> <p>写真掲示や施設の方の説明の中に「工夫」が見つかるように準備する。</p>



のびのびカードの活用

本時の話し合い活動について、自分で振り返る。次時の活動では、始めるときに、確認して目標を立てる。



(3) 成果と課題

<成果>

- 「表現・伝え合い」のための取り組みを行うことで、児童は見学の資料をもとに自分達の力で話し合いを行うことができた。また、いろいろな意見を出し合いながら、施設の工夫や人々の思いに気づける児童が多くいた。
- 話し合いの形態を「個人→グループ→全体」と進めることで、いろいろな発見に気づくことができた。
- のびのびカードには「今日がんばることができた」「次は意見をしっかりとりたい」などの反省がしっかりと書けており、自分の活動を振り返り、次の活動への意欲を高めることができた。

<課題>

- グループの中で意見を出し合い、グループとしての意見にまとめていく作業がうまくできず、時間がかかった。今後の学習の課題として、自分の意見を他の人にわかりやすく伝える事や、友だちの意見を聞き、その意見に対し、自分がどう思うのかを考える指導を行っていきたい。